

## 図書館におけるヤングアダルトサービス

06L4309 鈴木 麻由

### 1. ヤングアダルトサービスの定義と歴史

日本では公式な規定はないが、13歳から18歳とみなしている図書館がもっとも多い。  
下記 2 図書館に訪問調査をおこなった。

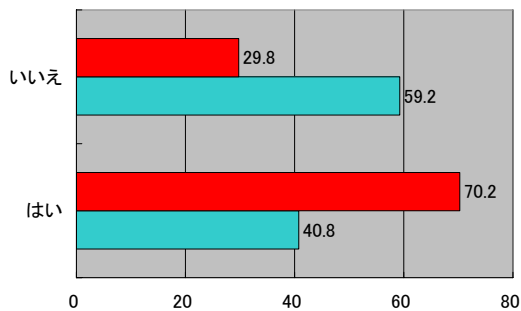
### 2. アンケート調査

「公立図書館におけるヤングアダルトサービス実態調査報告(2003)」の内容を踏まえて比較調査を行った。首都圏の図書館 328 館に対して回答は 121 館 (37.0%) であった。

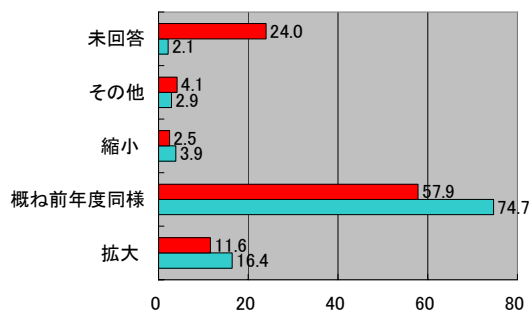
### 3. アンケート調査結果

(2002 年度調査を下、2009 年度調査を上で表示)

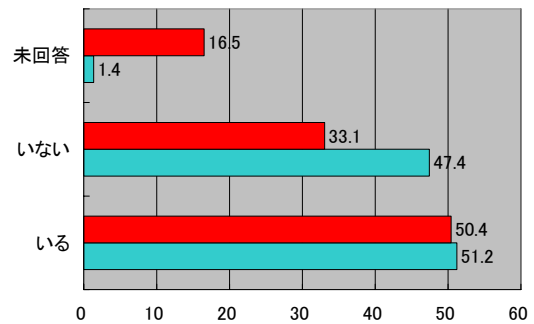
#### (1) YA サービスを実施の有無



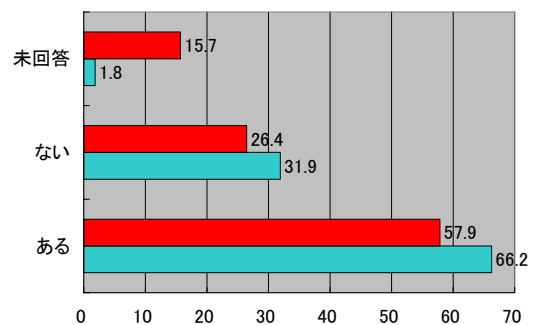
#### (2) YA サービスの概要



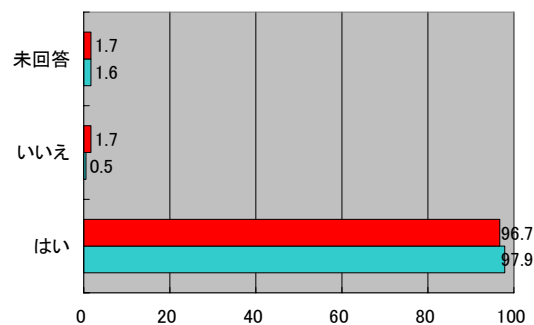
#### (3) YA サービス担当職員の有無



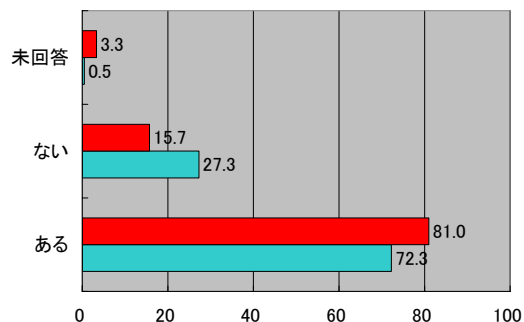
#### (4) YA コーナーの有無



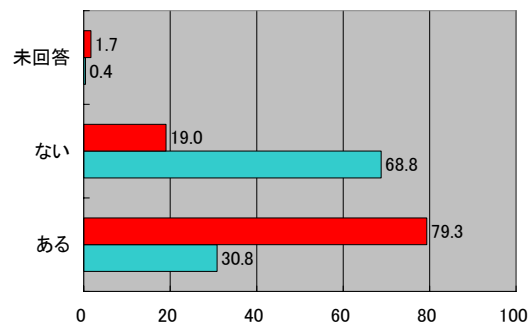
#### (5) YA 向け資料の有無



#### (6) 学校との連携・協力の有無



#### (7) 情報基盤の有無



### 4. 訪問調査

下記 2 図書館に訪問調査をおこなった。

設問	荒川区立南千住図書館	葛飾区立中央図書館
YA サービスを行うきっかけ	YA に詳しい方が講師となり、1年間区内で研修を行ってから始める	江東区図書館が80年代にYAサービスを始め、その流れで葛飾区にも来た
YA サービスの特徴	出前ブックトーク	ティーンズルーム
館内の YA 利用者の利用の仕方・反応	土日、テスト週間が多い	駅前なので夕方に高校生が寄ってくるようになった
問題点	予算、内外への PR	来館してくれるよう呼びかけが必要 資料費よりも講演会に出す費用がない
展望	図書館は「こんなことが出来る」というのを知ってもらう必要がある	

### 5. 考察

実施の有無の問題から今後どうサービスを続けていくかという問題に移っている。学校や学校図書館との連携が必要不可欠である。

また、YA サービス自体の捉え方についても問題がある。南千住図書館の担当者の意見である「内外への PR」が今直面している問題の解決の糸口だと考える。